■ 春の叙勲 ■
地域支えた貢献に光

春の叙勲が発表され、但馬地域では、地方自治や教育、医療、保健衛生、消防の分野で、人々の暮らしを支えた功労者が選ばれた。これまでの歩みや思いを語ってもらった。 （8面参照）

まちづくり 市民目線貫く

旭日小綬章
（元朝来市長）
多次 勝昭さん(72)
朝来市山東町矢名瀬町

朝来郡合併協議会事務局長や朝来市企画部長を経て2009年に初当選。直後から新型インフルエンザや台風9号などの対応に追われた。3期12年を務め、昨年5月に退任した。

就任直後の経験から危機管理や被災地支援などに取り組む一方、市民目線で公立病院の統合、観光事業などまちづくりを進めた。「支えていただいた皆さんとともに受けた栄誉」と謙虚に話す。（小日向務）

児童らとの思い出が宝物

瑞宝双光章
（元公立小学校長）
岡本 操さん(71)
新温泉町塩山

小中学校で教壇に立った後、新温泉町の教育長も務めた。「人間関係の力は全てに通ず」の信念で挑んだまちづくりに悔いはない。

知的障害のある妹の存在が教育の道へ駆り立てた。特別支援学級を受け持つこともあり、子どもと触れ合った日々全てが宝物だ。

少子化などの荒波は厳しさを増すが「皆が当たり前に笑える学校の役割は変わらない」と教育のさらなる発展を願う。（末吉佳希）

「暮らし守る」使命感胸に

瑞宝双光章
（元豊岡健康福祉事務所検査室長）
中井 五雄さん(68)
新温泉町飯野

「正確かつ迅速に」と常に自問し、生活に欠かせない水道水や食品の衛生環境に絶えず目を光らせた。

平成初期の水道法改正で水質基準が厳格化され、精密機器の導入などに奔走。通常業務との並行作業に骨が折れたが「住民の暮らしを守るため」との使命感が体を突き動かした。

培った知識は退職後のコメ作りに生きた。「なんだかんだで愛情が一番ですが」と笑う。（末吉佳希）

患者と向き合い開院46年

瑞宝双光章
（学校医）
由利 弘一郎さん(81)
豊岡市大磯町

女性医師が主人公の米国映画「慕情」を見て医師を目指し、医院を開業して46年。救急態勢が整っていない時代、深夜の大雪の中での往診もよくあった。

2000～04年には豊岡市・城崎郡医師会長。長年近隣の小中高の学校医や拘置所での診療も担った。「正しい診断をするためには患者の目を見てじっくりと話を聞くこと。これからも今まで通りしっかりやっていきたい」（石川 翠）

台風23号 避難誘導に奔走

瑞宝単光章
（元豊岡市出石消防団副団長）
松嶋 義則さん(64)
豊岡市出石町上野

1977年、出石町消防団に入った。「団員は地域の安全安心のとりで。38年間務めて少しは貢献できたかな」と振り返る。

2004年の台風23号では避難誘導に奔走した。「船を使ったり、おぶったりして高齢者らを助けたことが印象深い」と話す。

被災時や普段の消防団活動時も家のことは妻に任せっきりで「随分と助けてくれた」。受章の喜びを共に分かち合う。（桑名良典）

地域の安全、防災に尽力

瑞宝単光章
（元朝来市消防団副団長）
吉野 比呂志さん(64)
朝来市山東町矢名瀬町

1980年から34年間、消防団員として地域の安全や災害対応などに尽くした。「仲間や地域住民、会社の協力があってこそ」と受章を喜ぶ。

分団長になった直後、95年の阪神・淡路大震災では、三木市にあった支援物資の集配拠点で、未明から夜遅くまで物資の仕分けや搬出作業などに追われた。「今後も住民として地域防災に協力していきたい」と話す。（小日向務）